

## English follows Japanese

### 私たちが信じていること： 政府との関係ーローマ人への手紙 13:1-14

1802年1月1日、アメリカ大統領トーマス・ジェファソンは、ダンベリー・コネチカット・バプテスト連合の複数のバプテスト教会から寄せられた懸念に対して文書で回答しました。彼らの懸念とは、自分たちの州の憲法には合衆国憲法で約束されている信仰の自由の保護が含まれていないということでした。国家が国教会を設立して他の教会を排除しようとするような企てから、自分たちのような少数派の宗教団体を守るという、新しい大統領の確約が欲しかったわけです。これに対し、アメリカ史にも残る有名な返答としてジェファソン大統領は「私は、全米国民が立法府に『宗教の設立や、その自由な行使を禁ずる法律を作ってはならない』とした政教分離の壁を築いたあの法律を、主権者として畏敬の念をもって考慮します。」と書き送りました。バプテストは政府と宗教活動の分離、つまり公に認可された国教や教会を存在させないことを守る最前線にいました。より身近な例では、日本政府高官による靖国神社での公式行事に一貫して誰よりも反対してきたのは日本のバプテスト教会でした。彼らの反発も、同じ「国家と宗教の分離」という原則に基づいています。明治憲法下ではこうした保護は保証されておらず、実際に神道が国教とされていました。アメリカのダンベリー・バプテスト教会連合と同じように、日本のバプテスト教会たちは、政府が支持する国教会（私たちの場合は宗教）からの干渉を受けることなく、自分たちの思い通りに、自由に神を礼拝することができる社会を守ろうとしています。今日はほとんどの信仰宣言に含まれる、この教会と政府の関係についての重要な教えについて見ていきたいと思います。今日の聖書箇所はローマ人への手紙 13:1-14 です。1節は「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。」という言葉で始まっています。みことばを見ていく前に、まずは祈りましょう。

政府との関係において重要なのは、政府に従うべきだということです。ローマ人への手紙 13:1-2 には「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。2. したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従う逆らうのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。」とあります。この箇所を読み進めると、なぜそうすることが必要なのか5つの理由が挙げられています。けれど、まず初めにお伝えしておきたいのは、政府に従うということは、それがたとえ不公平な政府であったとしても、イエス・キリストに従うために政府の判断に従うことを意味するのではないかということです。パウロはこの書簡を、自分が好きなように礼拝する権利が保障されている、自由な国に住んでいるクリスチャンに向けて書いたわけではありません。特にローマに住むクリスチャンに向けて書きました。この当時の皇帝はネロであったと思われませんが、ネロは自分が気に入らない人、特にクリスチャンを迫害することで有名でした。けれどそのような環境に苦しむクリスチャンに対してでさえ、その政府は神が定められたものなのだから、政府に従えとパウロは言っています。ただ、礼拝をおこなうためのどんな法的保護があったとしても、それに頼るなど言っている訳ではないと思います。実際に死との働き 22 章では、パウロが福音を伝えたために暴動がおこったことで、鞭打たれそうになった際、彼はローマ市民としての権利を主張しました。使徒の働き 22:25 には、「彼らがむちで打とうとしてパウロの手足を広げたとき、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むちで打ってよいのですか。」「とあります。ローマ市民に関する法律に従わなくてはならなかったのに、彼らの態度は急変しました。同じように私たちは法律に従い、政府にも従いますが、自分たちの権利を主張しつつも政府に従うことができます。最終的にパウロを死刑にしたのはローマ政府でしたが、パウロは自分がローマ市民として持っている権利を恐れずに主張しました。ただ、私たちが従う政府が、私たちを正当に扱ってくれることを決して約束してくれているわけではないということは明確にしておきます。事実、マタイの福音書 10:16-18 でイエスが何と言われているか見て下さい。「いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。17. 人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを地方法院に引き渡し、会堂でむち打ちます。18. また、あなたがたは、わたしのために総督たちや王たちの前に連れて行かれ、彼らと異邦人に証しをすることになります。」

今日の聖書箇所を読み進めると、私たちが政府に従わなければならない一つ目の理由が見えてきます。一つ目の理由は政府には責任があるということです。その責任とは悪い行いを罰するということです。3-4節を読みましょう。「支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。4. 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。」第二ロンドン信仰告白の第24章セクション1で、この政府の役割について述べられています。「全世界の最高の主であり王である神は、御自身の栄光と公共の福祉のために、為政者を神の下、民の上にあるようにと制定された。そしてこの目的に沿って善を行なう者を守り励まし、悪を行なう者を罰するために彼らに剣の権能を備えられた。」もちろん既に見てきたように、政府はこの「剣の権能」を常に悪に向ける訳ではなく、時には神に従う者たちに向けることもあります。けれど、神が政府に善を行わせ、悪を罰することを意図されていることは事実です。それには必要に応じて戦争をする力も含まれます。信仰告白の第24章セクション2には続けて「その目的のため、新約のもとにある今でも、正当でまたやむを得ない場合には合法的に戦争をすることがある」とあります。もちろん、問題は戦争を行うべき正当な状況とは何かということです。話は変わりますが、何百年もの間、正戦論は政府が参戦するための倫理的根拠を定義してきました。しかし、この理論が曲解され、多くの非倫理的な軍事行為が正当化されてきたのも事実です。こうした政府の責任に対する理解は、クリスチャンが軍や法執行機関、さらには政治に携わることが適切であることも意味します。最終的にはキリストに従う者となったニコデモも、ユダヤの政府関係者でした。100人の兵士を指揮していたローマ軍人である百人隊長が自分のしもべを癒してほしいとイエスのもとを訪れたときも、イエスを死刑にするのはローマ軍人であるにも関わらず、イエスは彼の信仰を称賛こそすれ、その職業を非難されることはありませんでした。

政府に従わなければならない理由には2つ目があります。2つ目の理由は神との関係です。5節では「ですから、怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。」とあります。私たちは最も好ましい市民であるべきです。最も好ましい愛国者と言わなかったことに注意してください。そこには違いがあります。国家主義や愛国心は神の御国の市民権とは相容れません。私たちは第一にキリストとその教会に忠誠を誓う者であり、そのため自分の出身国を愛し、その良さを実感するかも知れませんが、その国の利益を他国よりも優先する国粋主義はクリスチャンの最も重要視する所であってはなりません。福音こそが、たとえそれが政治的なものであったとしても、私たちの決断を左右するものです。私たちクリスチャンが御国の市民として、また私たちが属するそれぞれの国民としてどう行動するかは、人生の他の全ての部分と同様に、完全にイエス・キリストの主権の下にあります。政府に従う私たちの良心は、聖霊によって整えられた良心に基づいたものであるべきです。だからこそロンドン信仰告白には誓いを立てることについての項目があるのです。現在でも多くの政府では、誓いを立てたり約束をしたりする場面が多くあります。自分が何を言っているのか、なぜそれを言っているのかについて深く考えない人たちと違って、クリスチャンはこうした誓いの言葉を神に向かって発するのですから、それについて非常に真剣に考えるべきです。その重大性を論じた後、信仰告白の第23章セクション2ではこう言っています。「とはいえ、真実の確証のための重要かつ緊急の事柄とか争いを止めさせる事柄においては、神の御言葉によって宣誓は保証されているので、合法的権威によって課せられるそのような事柄についての合法的宣誓はなされるべきである。」これはまた、神と私たちの関係の一番の特徴であり、そのためにバプテストは政教分離を最も強く支持するキリスト教教派となっています。改革派の他の信徒たちは、迫害を逃れるために国を支持する教会を作りましたが、そうしたアプローチをバプテストは決して取りませんでした。ドイツのルター派であれ、イギリス国教会、アメリカ植民地時代のマサチューセッツ州会衆派教会やメリーランド州ローマカトリックであれ、歴史的に見ても、新しい政府を支持しつつも特定の宗派の支配下にある教会を設立することが、迫害に対する応答でした。バプテストは歴史的に迫害を受けながらも、こうした状況に対抗し続けてきました。私たちの応答は教会と国家の分離でした。それは、イエスの言

葉を真剣に受け止め、私たちがこの地上のどの王国よりも偉大な王国に仕えていると認識しているからです。ヨハネによる福音書 18:36 にはこうあります。「イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」」バプテスト・フェイス・アンド・メッセージ 2000 の第 17 条にはこうあります。「教会と国家は分離すべきである。国家はすべての教会に対して、その精神的目的を追求する完全な自由を与え、それを保証する義務がある。そのような自由を与えるために、いかなる教会団体や宗派も国家によって他より優遇されるべきではない…国家はいかなる種類の宗教的見解に対して、罰則を課す権利を持たない。国家はいかなる類の宗教の支援のために税金を課す権利を持たない。自由な国家における自由な教会は、キリスト教の理想とするところであり、これはすべての人が自由かつ妨げられることなく神に近づくことのできる権利と、市民権力の干渉を受けずに、宗教の領域において意見を形成し、それを広める権利を持つことを意味する。」ですから、私たちは政府に従います。それは最終的には神に従うからです。私たちは政府との関係において、教会と国家が分離しており、望むように礼拝する自由が守られている、最善の解決策を求めます。

私たちが政府に従う 3 つ目の理由は支払うべきものは払うということです。6-7 節には「同じ理由で、あなたがたは税金も納めるのです。彼らは神の公僕であり、その務めに専念しているのです。7. すべての人に対して義務を果たしなさい。税金を納めるべき人には税金を納め、関税を納めるべき人には関税を納め、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい。」とあります。政府には税金を徴収する権利があり、私たちにはそれを払う義務があります。そうすることで、政府が悪を罰し、善を促すことができるようにします。けれど、税金を納めるために税金の使い道の全てに賛成する必要はありません。そして私たちが払うべきものは税金だけではなく、敬意も払います。ローマの権力者たちは決して誉れ高い人々ではなかったことを覚えていらっしゃるでしょうか。ですがパウロは政府にいる私たちの敵にさえも敬意を払うべきだと言っています。使徒の働き 23:3-5 に、パウロと大祭司アナニアとの間の興味深いやり取りが記録されています。そこにはこうあります。「そこで、パウロはアナニアに向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたを打たれる。あなたは、律法にしたがって私をさばく座に着いていながら、律法に背いて私を打てと命じるのか。」4. すると、そばに立っていた者たちが「あなたは神の大祭司をののしるのか」と言ったので、5. パウロは答えた。「兄弟たち。私は彼が大祭司だとは知らなかった。確かに、『あなたの民の指導者を悪く言ってはならない』と書かれています。」ここでパウロは律法に背いて打つことを命じた指導者に敬意を払わなかったことを謝罪しています。払うべきものを払うことがなぜ重要なのでしょうか。それは 4 つ目の理由につながるからです。4 つ目の理由は、私たちは第一とする関心事に集中し続けるからです。8-10 節にはこうあります。「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。9. 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。10. 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。」私たちが政府に対する責任を果たしてさえいれば、政府が私たちの生活に干渉してくることはないのです。本来の目的である人を愛することに専念することができるのです。パウロは、人との関係に関する神の律法を守ることは、隣人を愛するという大きな概念に要約されるのだと言っています。残念なことに政治や国民性といった本質的ではない問題にばかり目を向け、他人に愛を示すどころか、かえって愛のない憎しみに満ちた態度を取ってしまうクリスチャンも少なくありません。政府に従うべき理由としてこの箇所に見られるものがあと一つあります。5 つ目の理由は私たちの証しが聖くあるためです。11-14 節を読みましょう。「さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近づいているのですから。12. 夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨

て、光の武具を身に着けようではありませんか。13. 遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。14. 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。」私たちの生き方は、イエス・キリストを示すものとして知られるべきです。税金を納め、権威を持つ人たちに敬意を払うことは、永遠に目を向けるとき些細なことです。私たちの目はこの世ではなく、天国での永遠の命に至る救いの成就に向けられるべきです。私たちにとって、政治や国家のアイデンティティよりもはるかに重要な事があります。それは「私たちが信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近づいている」からです。アメリカ人、日本人、フィリピン人、シンガポール人、その他のどんな形容詞でもなく、まず私たちがイエスに従う者であることを知ってもらう必要があります。イエス・キリストはあなたのために神の怒りを受け、あなたの罪の罰を受けるために死んでくださいました。どんな国も、どんな政治家もそんなことをしてくれたことはありません。皆さんの国籍がどこにあったとしても、イエス・キリストがこの世におられない限り、地上の国の国民としてのアイデンティティ以上のものは望めません。ですが、イエス・キリストに在って私たちはより素晴らしい市民権を得ており、もし国家から迫害を受けることがあったとしても、それは善を行い、イエスに従ったためであるとして、地上の国の一市民として生き続けなくてはなりません。ペテロの手紙 第一 3:16 は「ただし、柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの善良な生き方をののしっている人たちが、あなたがたを悪く言ったことを恥じるでしょう。17. 神のみこころであるなら、悪を行って苦しみを受けるより、善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。」とっています。最後になりましたが、私たちが政府の指導者たちのためにしなくてはならないことがもう一つあります。それは祈りです。テモテへの手紙 第一 2:1-2 には「そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。2. それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。」とあります。私たちは政府に従い、政府関係者のために祈る必要がありますが、最後には、私たちの真の王であり救い主であるイエス・キリストの前に従いひざまずくのです。祈りましょう。

## What We Believe: Relationship to Government – Romans 13:1-14

On January 1, 1802, American President Thomas Jefferson responded by letter to concerns which had been raised by Baptist Churches that were part of the Danbury Connecticut Baptist Association. They were concerned because their state constitution did not contain religious freedom protections that were in the United States Constitution. They wanted to hear from the new President a commitment to protect minority religious groups like them from any attempt by a state to form a state church, and exclude other churches. In what has become a famous response in American history, President Jefferson wrote back saying, “I contemplate with sovereign reverence that act of the whole American people which declared that their legislature would “make no law respecting an establishment of religion, or prohibiting the free exercise thereof, thus building a wall of separation between Church and State.” So, Baptists were on the forefront of defending the separation of the government from Religious activities, in other words, there would be no officially sanctioned state religion or church.

In a more modern example that is closer to home, it has been the Baptist Churches of Japan that have been the most consistent opposition to official state functions by Japanese Government officials taking place at Yasukuni Shrine. Their opposition is based on this same principle of separation of state from religion. Under the Meiji Constitution, this protection was not guaranteed and in fact, Shinto was declared the state religion. Just as the Danbury Baptists in the US, Japanese Baptist churches are seeking to protect their ability to worship God freely as they see fit without interference from a government endorsed state church or in our case, religion. Today I want to look at this important teaching that shows up in most statements of faith on the relationship of the church to the government. The foundational passage to study this is Romans 13:1-14, which begins in verse 1, **Let every person be subject to the governing authorities.** Let’s pray before we get into this passage today.

**The bottom line in our relationship to the government is that we are to submit to the government.** Romans 13:1-2 says, **13 Let every person be subject to the governing authorities. For there is no authority except from God, and those that exist have been instituted by God. <sup>2</sup>Therefore whoever resists the authorities resists what God has appointed, and those who resist will incur judgment.** As this passage unfolds we will see five reasons why this is necessary. But I want to say right up front that submitting to the government, even an unjust government may mean that we are submitting to their judgement for following Jesus Christ. Paul was not writing this book to Christians who lived in free countries that guaranteed the right to worship as you pleased. He was specifically writing it to Christians living in the city of Rome. Nero was likely the emperor at the time, and he had a reputation for persecuting anyone he didn’t like, particularly Christians. Yet, even to Christians suffering in that environment, Paul says to be subject to the government, because even that government was instituted by God. It doesn’t seem, though, like he is saying not to take advantage of whatever legal protections are in place to worship. In fact, in Acts 22, when Paul is about to be whipped for preaching the gospel and basically inciting a riot, he asserted his rights as a Roman Citizen. **Acts 22:25 says, <sup>25</sup> As they stretched him out to flog him, Paul said to the centurion standing there, “Is it legal for you to flog a Roman citizen who hasn’t even been found guilty?”** Their attitudes immediately changed as they needed to follow the law regarding Roman citizens. So we follow the law, obey the government, but we can also assert our rights when we have them and still be subject to the government. Ultimately, it was the Roman

government that would put Paul to death, but he was not afraid to assert the rights he had as a Roman citizen. But be clear that we are never promised that the government that we are submitting to will treat us well. In fact, look at what Jesus says in [Matthew 10:16-18](#) Behold, I am sending you out as sheep in the midst of wolves, so be wise as serpents and innocent as doves. Beware of men, for they will deliver you over to courts and flog you in their synagogues, and you will be dragged before governors and kings for my sake, to bear witness before them and the Gentiles.

As this passage continues, we see the first reason that we need to submit to the government. **Reason 1 is this... Government has a responsibility.** That responsibility is to punish bad conduct. Let's read verses 3-4, **3 For rulers are not a terror to good conduct, but to bad. Would you have no fear of the one who is in authority? Then do what is good, and you will receive his approval, 4 for he is God's servant for your good. But if you do wrong, be afraid, for he does not bear the sword in vain. For he is the servant of God, an avenger who carries out God's wrath on the wrongdoer.** Chapter 24, paragraph 1 of the London Confession talks about this role of civil government. God, the supreme Lord and King of the whole world, has ordained civil authorities to be under him and over the people for his own glory and the public good. For this purpose, he has armed them with the power of the sword to defend and encourage those who do good and to punish those who do evil. Of course as we have already seen, they do not always direct this "power of the sword" against evil, but sometimes against God's followers. But the fact remains that God intends the government to enforce good and punish evil. That includes the power to wage war when necessary. Chapter 24, Paragraph 2 of the Confession goes on to say, **To accomplish this, they can now lawfully, under the New Testament, wage war in just and necessary situations.** Of course the problem is what is a just circumstance for war. It is a whole other topic, but through hundreds of years, Just War Theory has defined the ethical basis for governments to go to war. However, there have been many twisted understandings of that to justify many unethical military actions. This understanding of the government's responsibility also means that it is appropriate for Christians to serve in the military, law enforcement, and even political office. Nicodemus, who ultimately followed Christ was basically a Jewish government official. A Centurian, a Roman soldier who commanded 100 soldiers came to Jesus to heal his servant, and Jesus commended his faith, and never condemned his profession, although it would be Roman soldiers who put him to death.

There is a second reason that we find to submit to the government. **Reason number 2 is our Relationship with God.** Verse 5 says, **Therefore one must be in subjection, not only to avoid God's wrath but also for the sake of conscience.** We should be the best citizens. Notice I did not say the best patriots. There is a difference. Nationalism and Patriotism are not the same as Godly citizenship. Our primary allegiance is to Christ and his church, which means that while we may love and appreciate the country we are from, nationalism that puts one nations interests above another should not be a primary focus for a Christian. The gospel is what drives our decisions, even political ones. For us as believers, our citizenship and how we conduct ourselves as citizens of our various countries is fully under the Lordship of Jesus Christ as well as every other part of our lives. Our conscience to follow that government should be based on a conscience shaped by the Holy Spirit. This is why there is an entire section in the London Confession dedicate to the matter of taking oaths. In many governments even today, there are many situations where you are swearing or taking an oath or making a

promise. Unlike others, who may not even think about what they are saying or why they are saying it, Christians are to take these very seriously because they are being made to God. After discussing their seriousness, the Confession says in chapter 23, paragraph 2...**In situations that are weighty and important, an oath is warranted by the Word of God to confirm truth and end conflict. Therefore, in these situations, a lawful oath imposed by lawful authority should be taken**

But it is also the primary nature of our relationship with God, which has led Baptists to be some of the strongest Christian supporters of the Separation of Church and State. While other Reformation heritage believers sought to escape persecution by forming new supportive state churches, that was never the Baptist approach. Whether it was Lutherans in Germany, or the Church of England or the Congregational Church the American colony of Massachusetts or Roman Catholicism in the American colony of Maryland, setting up a new government supportive of and controlled by your particular denomination of church has historically been the answer to persecution. Baptists have always been against that, as we have historically been persecuted for our beliefs in every one of those situations. Our answer has been to separate the church and state. This takes Jesus words seriously in recognizing that we serve a greater kingdom than any here on earth. In [John 18:36](#), Jesus answered, “My kingdom is not of this world. If my kingdom were of this world, my servants would have been fighting, that I might not be delivered over to the Jews. But my kingdom is not from the world.” In our Baptist Faith and Message 2000, Article 17 says, **Church and state should be separate. The state owes to every church protection and full freedom in the pursuit of its spiritual ends. In providing for such freedom no ecclesiastical group or denomination should be favored by the state more than others... The state has no right to impose penalties for religious opinions of any kind. The state has no right to impose taxes for the support of any form of religion. A free church in a free state is the Christian ideal, and this implies the right of free and unhindered access to God on the part of all men, and the right to form and propagate opinions in the sphere of religion without interference by the civil power.** So we submit to government, because we ultimately submit to God. We seek the best solution in our relationship with government that is separation of church from the state, with the protected freedom to worship as we desire.

The third reason we submit to government is that **We pay what we owe.** Verse 6-7 says, **<sup>6</sup>For because of this you also pay taxes, for the authorities are ministers of God, attending to this very thing.<sup>7</sup>Pay to all what is owed to them: taxes to whom taxes are owed, revenue to whom revenue is owed, respect to whom respect is owed, honor to whom honor is owed.** The government has the right to collect taxes, and we have a responsibility to pay them. This is how we make sure that the government can afford to punish evil and promote good. However, we do not have to agree with everything our taxes are used for in order pay them. And its not just taxes that we owe, but honor. Remember the people in charge in Rome were not exactly honorable people all the time, but Paul says we pay honor and respect even to our enemies in the government. There is an interesting interaction that Paul has with Ananias the high priest in [Acts 23:3-5](#). It says, **<sup>3</sup>Then Paul said to him, “God is going to strike you, you whitewashed wall! Are you sitting to judge me according to the law, and yet contrary to the law you order me to be struck?” <sup>4</sup>Those who stood by said, “Would you revile God’s high priest?” <sup>5</sup>And Paul said, “I did not know, brothers, that he was the high priest, for it is written, ‘You shall not speak evil of a ruler of your people.’”** So Paul apologizes for not being respectful to

the ruler who had broken the law by ordering him to be hit. Why is this important – paying what we owe?

It is because it leads to our fourth reason. **Reason 4 – So we remain focused on our primary concern.** Verse 8-10 says, <sup>8</sup>Owe no one anything, except to love each other, for the one who loves another has fulfilled the law. <sup>9</sup>For the commandments, “You shall not commit adultery, You shall not murder, You shall not steal, You shall not covet,” and any other commandment, are summed up in this word: “You shall love your neighbor as yourself.” <sup>10</sup>Love does no wrong to a neighbor; therefore love is the fulfilling of the law. You see if we are fulfilling our responsibility to the government, by not having the government interfering in our lives, it allows us to focus on where our primary focus needs to be- loving others. Paul points out that obeying any of God’s laws directed at our relationships with others can be seen under the overall concept of loving our neighbor. Unfortunately, there are many Christians who focus so much on peripheral issues of politics and national identity that instead of showing love to others, they actually end up coming across as unloving and even hateful.

There is one final reason for submitting to the government that we see in this passage. **Reason 5 is so our testimony is pure.** Let’s read verses 11-14, <sup>11</sup>Besides this you know the time, that the hour has come for you to wake from sleep. For salvation is nearer to us now than when we first believed. <sup>12</sup>The night is far gone; the day is at hand. So then let us cast off the works of darkness and put on the armor of light. <sup>13</sup>Let us walk properly as in the daytime, not in orgies and drunkenness, not in sexual immorality and sensuality, not in quarreling and jealousy. <sup>14</sup>But put on the Lord Jesus Christ, and make no provision for the flesh, to gratify its desires. We need to be known for the way we live, that it reflects Jesus Christ. Paying taxes, giving honor where honor is due to those in authority is a small thing to offer in light of eternity. We should have an eye not for this life, but for our ultimate salvation we find in eternal life in Heaven. We have far more important things than politics and national identity to focus on because “**salvation is nearer to us now than when we first believed.**” We need people to know us for being Jesus followers first, rather than Americans or Japanese or Filipino or Singaporean or any other adjective that describes you. Jesus Christ died for you, to take God’s wrath and pay the penalty for your sin. No country or politician has ever done that. No matter what nationality you are, without Jesus Christ this life, your identity as a citizen of an earthly country may be the best you can hope for. But with Jesus Christ we have a greater citizenship, and we should seek to live as citizens of our earthly countries in such a way that if we are persecuted by our country, it will be for doing good and following Jesus. **1 Peter 3:16 says, having a good conscience, so that, when you are slandered, those who revile your good behavior in Christ may be put to shame. 17 For it is better to suffer for doing good, if that should be God's will, than for doing evil.** Finally, as we end, there is one other action we owe our government leaders – prayer. **1 Timothy 2:1-2 says 2 First of all, then, I urge that supplications, prayers, intercessions, and thanksgivings be made for all people, 2 for kings and all who are in high positions, that we may lead a peaceful and quiet life, godly and dignified in every way.** We need to submit to government, pray for our government officials, but ultimately kneel in obedience to our true king and Savior Jesus Christ. Let’s pray.